

SHINGON HORONIC

色 は 匂 へ ど

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 結縁滝頂

平成十六年文月 卷三十一



福寿海無量

ふくじゅのうみはむりょうなり

火星にも水があつたことがわかり
生命が存在した可能性が高いようで
す

大海は無限の大河の流れを受けいれ
溢れることなく
生命を育み続けています

大海は如来の慈悲をあらわし
福寿の海であり
その慈悲は無量です

特集 結縁灌頂



3

お釈迦さま 真理の花束 13



9

日本の道徳教育 実語教
その2

現代の道しるべ

ジャータカ物語 無くした魔法11

新刊紹介



18



11

真言宗最初の灌頂

新緑の美しい中で満願寺の結縁灌頂三摩耶戒大法要が、お勤めされました。

大塔完成記念で今から十二年前に一度開かれた結縁灌頂です。

今回はお大師さまが唐の都から万里の波濤を超えて、身命を賭けて日本へ戻られてから今年が千二百年という、まさに勝縁の年を記念して開かれました。

前回は結縁灌頂をお受けになる方がとても多く、早朝から夕方遅くまでかかったので、今回は前半の三摩耶戒法要と後半の結縁灌頂とを一日間にわけての勤修です。

お大師様による最初の灌頂は京都高雄の神護寺で開かれました。

その時の記録がお大師さま自らお書きになられた書の世界でも名高く書の最高峰ともいわれる『灌頂歴名』です。

その『灌頂歴名』によると弘仁三年（八一二年）十一月十五日と十二月十四日そして翌年三月六日と年号が記されています。灌頂を授かる人々は天台宗を開かれた最澄をはじめとする僧侶、神護寺を建立した貴族和氣氏、さらに沙弥や童子という幼い子供たち。総勢百四十五人がこの灌頂壇に入りました。



青空のなか道場へ向かう人々。



道場へ上がる前に妙なる香が焚かれる講堂で心を落ち着かせます。





説戒師真保龍敞僧正様から灌頂の意味が丁寧に説かれます。

では灌頂とはどんな儀式なのでしょうか。灌頂とは頂に灌モモぐと書きますが文字通り、受者の頭に聖水を灌ぎ尊い仏菩薩の列に連なる儀式です。

もともとインドで行われていた王の即位式にその原型があり大海の水を即位する王の頂に灌ぎ世界を支配することを象徴していました。ですから灌頂は仏菩薩の位につくための即位式でもあります。

しかしお大師様は一般的の誰でもが人々の心の仏様を呼び覚まし、妙なる曼荼羅世界に導きたいという願いから結縁灌頂という儀式をお考えになりました。

結縁とは仏様と縁を結ぶと言うことです。ではどのようにすると仏様との縁が結ばれるのでしょうか。

灌頂を受ける受者はまず三摩耶戒という法要に臨みます。そこで大切な三摩耶戒と十善戒を授かります。

三摩耶戒とはどんな戒でしょうか。三摩耶とは平等という意味です。心と仏様と衆生人々が平等であることを信じ、どんな困難にあっても正しい法を守り悪を行わないことです。さらに正しい教えを相手の器量に応じて惜しみなく与えること。衆生の救済に勤めることです。

十善戒とは殺す無かれ 盗む無かれ 邪な愛欲に落ちる無かれという身体の三つの戒、妄想を云う無かれ 綺を語る無かれ 惡口を云う無かれ 嘘を云う無かれという言葉にともなう四つの戒、さらに心にともなう三つの戒があります。それは貪るなけれ、怒る無かれ、邪見でものを見る無かれ。

この十の善き戒が社会に拡がれば温かい家庭が生まれ、素晴らしい地域社会が生まれ組織も発展し会社も国も発展し人々も幸せになります。

お大師さまは三摩耶戒を説かれた言葉の中で

「優れた医者の眼で見れば毒草も薬として変じ、如來の智慧の眼で衆生を照らせば皆仏なり。衆生の身体と諸仏の宇宙も本来一つにして差別無し。しかし衆生は悟らずして長く迷い畏れ苦しむ。諸仏はよく覺つて常に安らかにして樂しみをえる。今人々のために秘密真言の法を説き三摩耶戒を授け衆生の心仏を輝かし妙なる 曼荼羅世界に導く」と。

職衆が立座して声明を唱える



散華師は美しい座具の上で散華という声明を唱えながら実際に散華をする

美しい座具の上に散華された五色の花弁



実際の法要では説戒師と呼ばれる阿闍梨から灌頂と戒についてつまびらかに説き明かされます。

道場の中には白い帳で四角く覆われた三摩耶戒壇が築かれます。職衆と呼ばれる僧衆が道場の外に列して法要を賛嘆する声明を唱えると、大阿闍梨と受者の代表が入堂します。大阿闍梨と正受者が帳の中に着座すると職衆が入道しこの帳の周りを三回周り着座します。

散華師という職衆が漆黒の道場に美しい座具を拡げその上で散華という声明を唱えていきます。他の職衆も立座して声明を唱えながら五色の花弁を散華します。

帳の正面が巻き上げられ受者代表が戒を乞う乞戒之文を奏上こうかいすると、三摩耶戒壇の大阿闍梨から三摩耶戒と十善戒が授けられます。

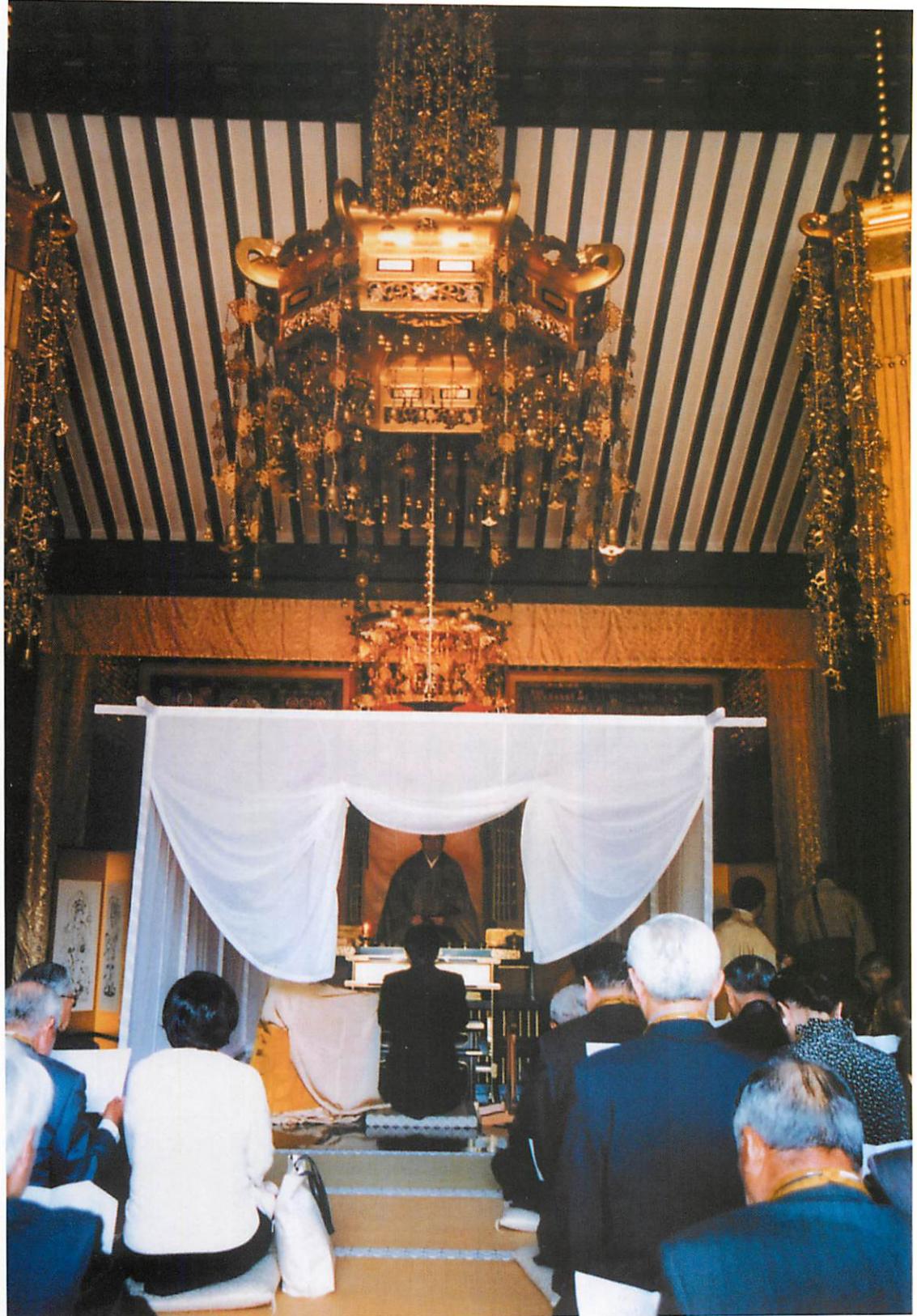
そしていよいよ一人ずつ灌頂壇に進みます。

五色金剛線という受者を守る腕輪を阿闍梨から授かり腕にかけ、金剛誓水という心を清める誓水を頂きます。心の眼を開くため覆面をし教授阿闍梨に手を携えられご真言を唱えながら大曼荼羅の前に導かれます。その時、合掌した指先に華をはさみ、覆面のまま華を曼荼羅に投じます。その華が落ちた曼荼羅上の仏様と結縁、縁が結ばれます。これを「投華得仏」といいます。この瞬間覆面が外され眼前に美しい大曼荼羅と自らの華が投じられて結縁の仏様が教授阿闍梨から明らかにされます。

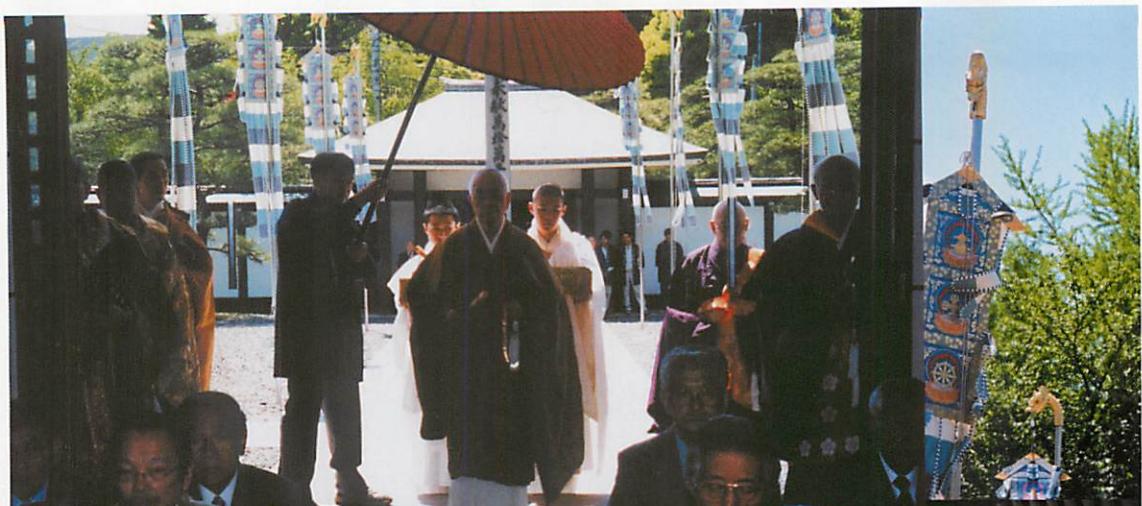
教授阿闍梨に導かれ真言八祖という真言宗の八人の祖師像を礼拝します。そして大阿闍梨から真言と手に結ぶ印、さらに血脉と金剛名を授かります。



帳の中の大阿闍梨と受者代表と教授阿闍梨



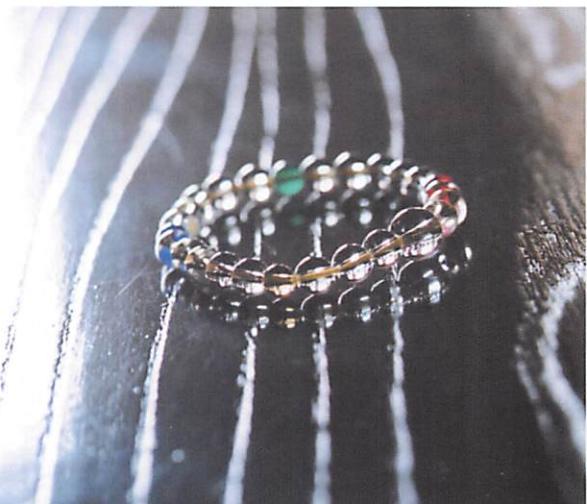
散華がおわり帳が巻き上げられる。



結縁灌頂配役

大阿	阿部龍文 大僧正
教授阿闍梨	神中隆祐 僧正
説戒師	真保龍啟 僧正
壇行事	佐藤利和 僧正
井上康彦 僧正	佐竹竜恵 僧正
島津隆徳	近藤隆明 僧正
川村運快	関根竜浩 僧正
内藤隆雅	渡邊真行 僧正
内藤隆維	田中定宏 僧正
井上康毅	茂木隆秀 僧正
島澤庸祐	飯田盛重 僧正
阿部龍樹	佐藤清隆 僧正
承仕	佐藤龍和 僧都
従弟子	佐竹靖弘 僧都
別座	深草隆太 僧都
別座	川村滋之 僧都
随喜	茂木隆應 僧正
田中定完 僧正	田中定隆 僧正
田中定隆 僧正	真保龍言 僧都
田中定隆 僧正	圓澄

受者全員に授けられた五色
水晶念珠



血脉というのは真言宗の法の家系図です。

大日如来、金剛薩垂、龍猛菩薩、龍智菩薩、金剛智三藏、不空三藏、惠果阿闍梨、弘法大師と連綿と続く法の家系であり、大切なものなので血脉といいます。そしてこの大日如來から始まる血脉の最後に受者の金剛名が記されます。

弘仁三年の高雄灌頂では、最澄は寶幢如来、泰範は般若菩薩、圓澄は觀音菩薩と結縁されています。

お大師様は唐長安で惠果阿闍梨から正式な金剛界と胎藏法の灌頂を受けられましたが、お大師様の華は二度とも大日如来に落ちました。惠果阿闍梨は「不可思議、不可思議」とおおいに喜ばれました。惠果阿闍梨の師、不空三藏が金剛智三藏から灌頂を授かつた時も大日如来に華が舞いました。その時金剛智三藏はとても喜び「不空は他日、大法を起こすであろう。」と云いました。惠果阿闍梨は同じ感慨をお大師様に持ちました。そして最も尊い遍照金剛という金剛名をお大師様に授けました。

お大師様の受けられた灌頂は密教の最高位にのぼる王の即位式を超える莊嚴華麗なものでした。しかし灌頂の費用はすべて受者が賄うことが条件です。しかしお大師様はこの尊い灌頂が童子まで受けられるように結縁灌頂を始められました。

江戸時代には結縁灌頂が盛んになり十万を超える人々が競つて灌頂を受けました。

この現代で結縁灌頂とお大師様の精神が広く人々の中で再発見されれば素晴らしい社会が生まれます。

金剛名を授かつた全ての人が現代のよき道しるべです。

なくした魔法

絵 美薫

美術指導 小原洋子先生



むかしむかし菩薩は賢人となつてとても貧しい身分の低い者だけがいる村に住んでいました。賢人は不思議な魔法が使えました。毎朝早く森へ行きマンゴーの木の所へいきます。木の根から七歩離れ呪文を唱えます。そして木に水を降り注ぎます。

枯れた葉は落ち、若葉が出て瞬く間に青々としげり、美しい花が咲き、花が枯れ落ちると誰も見たことがないような立派なマンゴーの実が沢山なりました。

ある日立派な家から勘当されたお金持ちの青年がそれを見ていました。

「なんと凄い魔法だろう。あの魔法さえ手にはいればどんな出世も夢じゃないぞ。」

青年は魔法が習いたいばかりに賢人の家の下男となつて働きました。賢人の奥さんが

「そろそろ魔法を教えて上げたらいかがですか？」

「青年が魔法を持ち続けられるとは思えないが・・・」
しかし賢人は青年に魔法を教えることにしました。

「青年よ。この魔法はとても有り難くやがて大金持ちになり人かも大事にされる。しかもしも王様や大臣からこの魔法の先生が誰かと訪ねたら正直に私のこと話しなさい。もしお前が私のいや身分を恥じて、だれか立派な先生に習つたといつたらこの魔法は消えてしまうよ。」

青年は大きな国都へ行きマンゴーを売つてお金持ちになりました。

その国の王様はマンゴーが大好物です。ある日その青年のマンゴーのあまりの美味しさに驚き青年をお城に呼びました。王様の命令で青年は王様の目の前でマンゴーを沢山木にならせました。みんな拍手喝采青年は沢山のご褒美をもらいました。

そして王様はその魔法をどこの誰に習つたかを尋ねました。

青年は貧しく身分のいやしい賢人から習つたといつたらバカにされると思い

「私の魔法は世界一の都で一番名高いバラモンから学びました。」と答えて帰りました。

別な日、王様はまた美味しいマンゴーを食べたり青年を呼びました。



青年がいつものように呪文を唱えますが
マンゴーは一つもなりません。

青年は「今日は星回りが悪い日です。」

しかし王様の目はごまかされません。

「この前は星回りの事などいわなかつた
ぞ。」もうこれ以上王様をあざむけませ
ん。

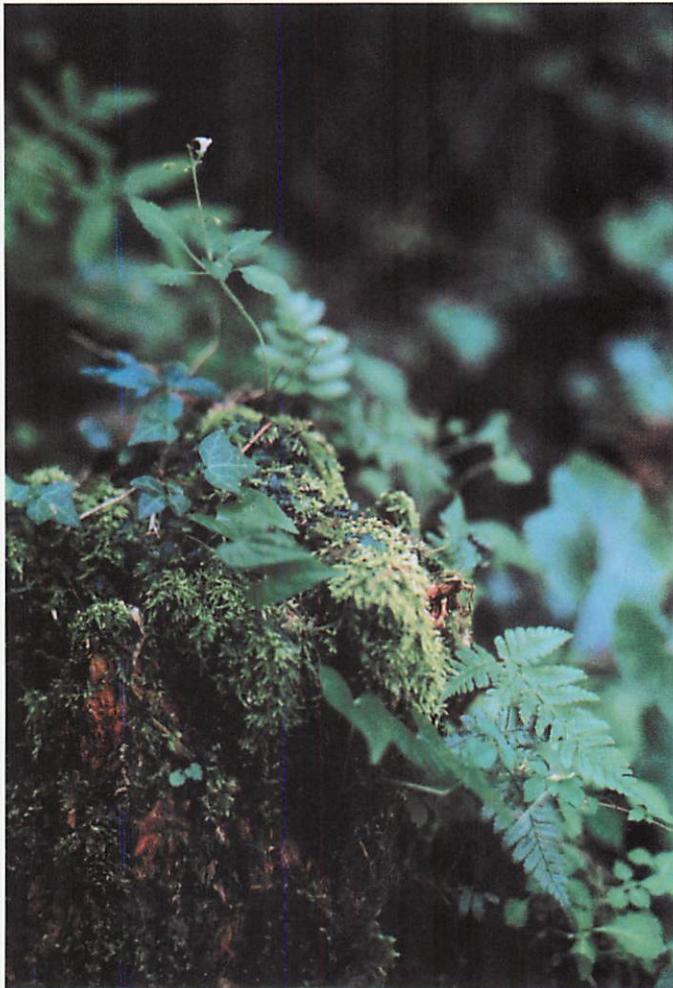
青年は正直にわけを話し、自分の魔法が
身分のいやしい賢人から習つたことを云い
ました。

王様は「愚かな青年だ。身分がいやしい
とか貧しいとを恥じるとは。うそいつわり
を云う心が恥ずべきいやしい心なのに。先
生の所へ行き謝つてもう一度魔法を習つて
こい。もし魔法が使えなければ二度とこの
国へ入ることは許さない。」

青年は賢人を訪ねましたが賢人は
「二度、同じ魔法を教えられない。」と
いつて断りました。

魔法を無くした青年は一人寂しく森の中
で暮らし一人寂しく死にました。

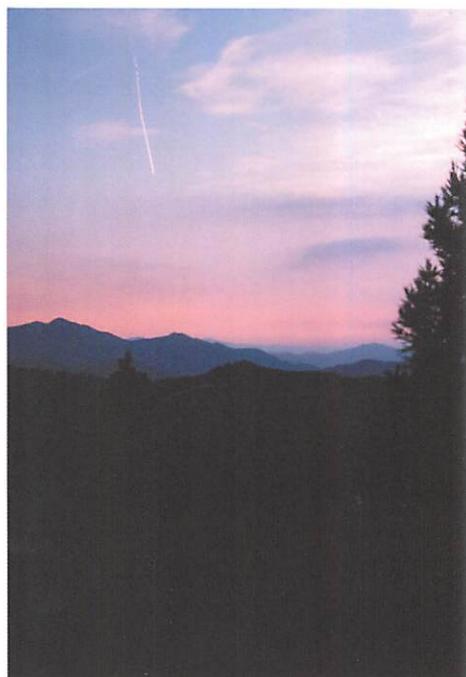
お釈迦様真理の花束



This man of little learning grows old like the bull,

his muscles grow, his wisdom waxes not.

人之無聞
老牡牛
筋肥
若長肌
壯有智
肥慧



聞くこと

少なき人は

かの鍬を曳く

牡牛のごとく

ただ老ゆるなり

その肉は肥ゆれど

その智慧は

増すことなからん



進んでいくのさ。むずかしいことがわかって、考えが深くならなきゃ、世の中の苦しみからは、どうしたってぬけだせないよ。

深い知恵や考えを身につけるには、まず人を困らせるようなわるいことはしないこと。次に人をだましたり、まよわせたりするようなわるいことは使わないこと。それから自分勝手なわるい考えは持たないこと。こまかくいえば、しちゃいけないことが十あるんだけど、それはべつに勉強しようね。なやみや苦しみのない世界にいられりや、そりゃ楽しいけど、努力をしない人間には、まるっきり縁がないよ。

両親を尊敬するようにお年寄りを尊敬でしょうね。弟や妹をかわいがるように小さい子どもたちをかわいがろうね。

人を尊敬すると、自分だって尊敬されるよ。人のお父さんやお母さんを尊敬すると、自分の両親だって、みんなから尊敬されるんだ。

人よりも先にしたいなと思うことがあったら、まず人に先をゆずってごらん。人が悲しんでたら、いっしょに悲しむんだ。人がよろこんでたら、うらやましがらないで、いっしょによろこぶんだ。悲しむのもよろこぶのも、人といっしょにできるのが、ほんとに知恵の深い人さ。人のためになるいいことには、進んで参加しよう。人のためにならない、わるいことには近づくなよ。

いいことをし続けてりや、幸せがついてまわるよ。ちょうど鐘がひびくのと、鐘をならすのが切っても切れないようにな。わるいこととわるい人は、固く結びついてしまって、はなそうってはなせやしない。ちょうどかけがからだに、いつもよりそってるようにね。

お金持ちになったからって、びんぼうだったときのことをわざれるんじゃないよ。もしかすると、小さいときはお金持ちだったのに、大人になって、びんぼうになることだってあるんだから。

えらくなったからって、自分がつまらない人間だったときのことをわざれるんじゃないよ。もしかすると、優秀なこどもだっていわれてたのに、大人になったら、つまらない人間だったってことが、よくあるんだから。

さあ、終わりに近づいた。教わるのがむずかしくせに、わすれてしまいやすいのが、たとえば音楽を演奏することだ。ぎゃくに教わるのが楽で、しかもわざれにくいのが、文章の読み書きだ。

勉強が大事なことは、わかってくれたかな。

でも世の中でくらすには、ほかにも大事なことがあるよ。それは人ととのやくそくごとさ。今、自分が生きているのは、命があるからだね。でもだれだって、自分一人で生きていけるわけじゃない。たとえば、命をささえるには食べる物が必要だ。いくら勉強が大事だって、食料を作ってくれることを、考えないんじゃ失格だ。もちろん勉強より、食料を作るほうが大事だからって、勉強を止めてしまうのも失格だ。

さあそれじゃ、いつの時代のこどもでも、勉強しようって思い立ったら、この本で勉強してみるといいよ。どこのだれにでも、一生役立つようになって、勉強の初めの一歩のところを書いた 15 んだから。

現代の道しるべ（前頁17pから続く）

今は元気にしていたって、からだは毎日少しづつ弱っていく。ものをおぼえたり考えたり、なにかしようと思ったりする力だって、いつの間にか弱っていく。



こどものうちに、いっしょけんめい勉強しそうね。大きくなつてから、ああしまつた、あのとき勉強しておくんだったと後悔したって、もうとりかえしがつかないよ。

だから本を読むのはいやだなんて、とんでもない。それに勉強してると、ほかのことを考えたり、なまけたりしちゃいけないね。

眠くったって、寝床に入る前には、かならず暗唱の練習を繰り返すんだ。居眠りなんか、もちろんだめ。どんなにおなかが空いたって、決められた時間には、読んだり書いたりし続けるんだ。飲んだり食べたりしながらなんて、もちろんだめ。

大事なことをよく教えてくれる、すばらしい先生に出会えたって、自分で勉強しなきゃ、通りがかりの人が、ただ目の前につたっているのと、ちっとも変わらないよ。

文章が読めたって、くりかえしくりかえし読まなかったら、なにも身につかないよ。それじゃ人のお金を数えて、なんてたくさんあるんだろうって、うれしがるのと変わりやしない。

ほんとにえらい人が好きなのは、知恵の深い人。でもえらそうにしてたり、世の中のことがよくわかってるようなふりをしてる人たちは、お金持ちが好きだね。

運がよくてお金持ちの家で育ったって、ほんとの宝物（知恵）がなかったら、その人のくらしは、寒さでいじけてしまった花のように、先が思いやられる。

びんぼうな家庭で育ったって、知恵を身につけたなら、どんなにひどいくらしをしてたって、どろ沼で咲く真っ白なハスの花のように、清らかに見えるばかりか、気高くさえ見える。

両親は天と地のように、大きくこどもを包んでくれる。先生は太陽と月のように、物事をはっきりわからせてくれる。両親も先生も、ありがたいありがたい人たちだ。

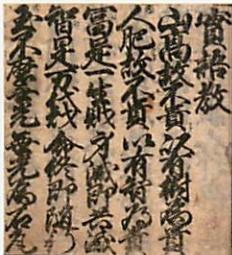
おじさんにおばさん、それにいとこやはとこと数えていくと、親類っていっぱいいるだろう。でもその人たって、水辺に生えるアシのようにもろくて、いざ頼りにしようと思うときは、頼りにならないよ。

将来だれかと結婚して、夫婦になるね。夫婦は屋根のかわらのように力を合わせて、しっかりと家を守るものなんだ。

両親をうやまつて言いつけを守ろうね。先生にはいつでも礼儀正しく接して、きちんと教わるうね。そして先生が言われるとおりにしてみようよ。

友だち同士でけんかなんかするなよ。兄さん姉さんがいばってたり、いじわるだったりしても、自分のほうから尊敬してごらん。弟や妹がなまいきだったり、いたずらだったりしても、自分のほうからかわいがってごらん。

知恵のない人間なんて、木や石ころと変わりやしない。親を尊敬しない人間なんて、けだものと変わりやしない。



今年の春彼岸会に吉村洪先生から実語教についてお話を頂きました。そのおり先生自ら、現代人にわかりやすく子供も読める口語訳をつくられました。前号の「色は匂へど」でご紹介したよりも反響がとても大きく、あらためて今、心ある人々が日本人の心にかなう現代の道徳教育を求めていることがわかりました。今回は現代語訳全文をご紹介します。

なお前号の15P5行目の『考』→『孝』、
同29行目『明治三十二年』→『明治二十三年』

『教育に関する勅語』→『教育ニ関スル勅語』と訂正いたします。

高い山はりっぱに見える。でもほんとにりっぱなのは、木がいっぱい生えている山だ。いろいろと役に立つからね。

からだつきがりっぱで、顔立ちのいい人は、えらそうに見える。でもほんとにえらいのは、知恵がいっぱいあって、考えの深い人だ。知恵のある人だったら、世の中の役に立つことが、たくさんできるからね。山も人も、見かけより中身が大事ってことさ。

お金や物は便利だけれど、思いどおりに使えるのは、自分が生きている間だけ。自分の一生が終わったら、だれかが好き勝手に使ったって、もうそれを止められやしない。

人の役に立つ知恵はちがうんだ。自分の一生が終わって、自分の使ってたとおりに、だれかが使ってくれるよ。だから自分の思ってたとおりのことが、いつまでも伝わっていく。

きらきらきれいに光る宝石を知ってるかい。あれはきらきら光るように、手間をかけてみがくから、光るんだ。光らなかったら、そこらに落ちてる石ころとちっとも変わらない。

人間だって同じさ。努力して勉強するから、すばらしい知恵が身につくんだよ。知恵がなかつたら、世の中のことがなんにもわからない、困った人になってしまう。

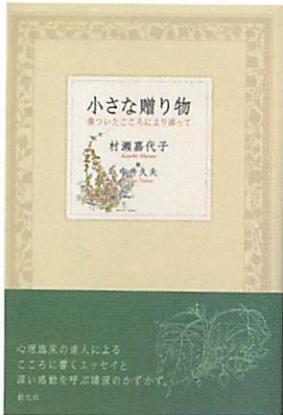
お金や物はいくら大事にしまったって、ひょっとしたことでなくなってしまう。たとえば、災害にあったらどうなるだろうかって考えりゃ、すぐわかるね。

そこへいくと、一度身についた知恵は、使っても使ってなくなりやしない。使えば使うほど、もっといい知恵が浮かんでくることだってある。

だからお金をたくさん持ってたって、たったの一日勉強すりゃ身につくことに、かなわないことがあるほどさ。

同じ親から生まれたきょうだいなのに、きょうだいは自分とは、必ずちがってる。気持ちが通じないことはいっぱいあるよ。でもいつも仲良くしようね。大事なのは、もしきょうだいが悲しがってたら、いっしょに悲しむこと。ここはまちがえないでくれよ。同情じゃない。きょうだいが悲しがってることを、同じように悲しく感じることなんだ。これでこそきょうだいさ。そうすりゃほかの人とだって、きょうだいのように仲良くなれるようになるさ。

お金や物がなくなりやすいつことはわかったかな。だからお金や物は、ほんとの宝物なんかじゃない。自分の知恵や考え方こそが、ほんとの宝物だ。



『小さな贈り物 傷ついた心により添って』

村瀬嘉代子著

創元社

連休の前に村瀬先生から小さな贈り物が届きました。美しい装丁と中井久夫氏の挿し絵で、村瀬先生の文章が心のすっと入ってきます。文章は不思議で著者の方を存じ上げていると、文章にその方の声が響いてきます。しかし村瀬先生の文章は先生を存じ上げない方にもリアリティーのある声として響くような気がします。

表題作をはじめとする珠玉のエッセイと講演の記録です。

『「いのち」としての言葉』には母国語の尊さについて深く考えさせられましたし、『こころをこめた日々の営み』は家庭も会社や組織をも善き方向へ導く宝物があります。



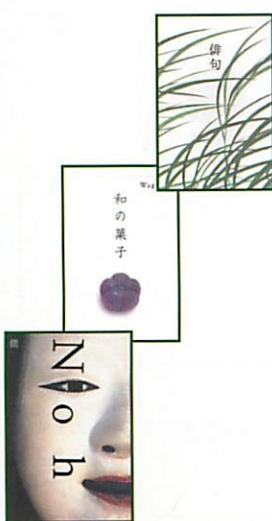
『百歳回想法』『百歳王笑顔のクスリ』

文 黒川由起子 写真 小野庄一

木楽舎

『老い』と『死』は誰にとっても受け入れがたいことです。戦後の日本では『死』は封印され語ることも考えること無くなりました。病院で最期を迎える人が99%ぐらいでしょう。核家族化で子供達は『死』も『老』も知らずに育ちます。

『百歳』といえば立派な老人だと思いますが小野氏に写された人々の美しい笑顔。その笑顔は神々しささえ感じさせます。高齢者臨床心理の黒川氏によって繙かれていく回想、百年の歳月。それはまさに世紀をこえる物語でいのちのエッセンスそのものです。



『和菓子』『俳句』『能』

PIE BOOKS

竹内信夫先生の「空海言葉の輝き」と同じシリーズの本です。日本の文化の高さを分かりやすく海外の方に紹介する素敵な本です。美しい写真が豊富なうえに解説が簡潔で英訳とともに読めるのでページをめくる楽しさがあります。

英訳は俳句の英訳で米国俳句協会メリットブック賞翻訳部門を受賞した宮下恵美子氏です。



宮下恵美子氏の句集『たちまち』



次号特集 信貴山縁起絵巻

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI Editorial Staff/ SAMURO MIWA Ooyama CHIGUSA SHIMAZU RYUTOKU
KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA KARASAWA JITSUYO

Making Mechanic SHOEIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第三十一号 平成十六年文月一日発行

R100